

R2年 園芸施設共済 トマト病害虫発生予察調査結果(白根)のお知らせ No.4

調査日 令和2年5月19日

NOSAI新潟県、NOSAI新潟、JA新潟みらい
新潟市、病害虫防除所、新潟農業普及指導センター

病害虫名	発病度 寄生度	過年度比較		今後の 発生動向	生育の概況等
		前年値	平年比		
灰色かび病	1.8	0.0	並	↗	※ 調査点数 大玉2点、中玉2点 ※ 生育ステージ 大玉トマト： 2/中定植：3段収穫 3/中定植：1段収穫 ※ 平年比は過去10年の平均との比較 うどんこ病のみ過去4年の平均との比較
葉かび病	4.8	10.0	並	↗	
うどんこ病	0.0	0.0	並	→	
コナジラミ類	0.0	0.0	並	→	
アザミウマ類	0.0	0.4	並	→	

～ 一部で葉かび病の防除効果低下がみられます。的確な薬剤選択を！ ～

【病害】

- ・ 2地点で**葉かび病**を確認しました。発生程度は平年並となっておりますが、完全には押え切れていないハウスがみられます。薬剤への抵抗性もみられるため、殺菌剤の選定に当たっては、細心の注意が必要です。別表を参考に防除を進めてください。

【害虫】

- ・ 調査ほ場での害虫の発生は確認されませんでした。

【表 トマト葉かび病防除薬剤】 ～ミニトマトでは登録内容が異なるので確認の上使用してください～

効果	系統(番号)	薬剤名	使用時期	使用回数	希釈倍率	散布分量
治療	7	パレード20フロアブル	収穫前日	3回以内	2000～4000倍	100～300(ℓ)
	7 50	ラミック顆粒水和剤	収穫前日	2回以内	1000倍	100～300(ℓ)
	11 M5	アミスターオブティフロアブル	収穫前日	4回以内	1000倍	100～400(ℓ)
	11 27	ホライズンドライフロアブル	収穫前日	3回以内	2500倍	150～300(ℓ)
	11 7	シグナムWDG	収穫前日	2回以内	2000倍	100～300(ℓ)
予防	M3	ジマンダイセン水和剤	収穫前日	2回以内	800倍	100～300(ℓ)
	M5	ダコニール1000	収穫前日	4回以内	1000倍	100～300(ℓ)
展着剤	シリコン系	まくびか	-	-	10,000～3,000倍	1～3.3mℓ/10ℓ

薬剤の散布に当たっては最新の登録状況を確認してください！

【葉かび病防除のポイント】

- 1 農薬は、いくつかの系統に分類されます。名称は違っても**系統番号が同じ場合は、同一の作用機構**と考えます。使用回数は系統番号で判断してください。(同一系統の薬剤でも防除効果は異なります)。
- 2 **系統番号が2つ記載されている農薬は混合剤**です。2剤が混合されているので、散布回数はそれぞれのカウントが必要となります。
- 3 **発生がみられる場合は、治療効果を有する薬剤を使用してください。多発生の場合は、1回だけの散布でなく、別系統の薬剤を近接散布することで効果が増します。混合剤の効果が高い場合が多いようです。**
- 4 **発生前や、初期には予防的な薬剤を散布してください。**予防的な散布でも十分な効果が期待できます。
- 5 ぬれ性の高い「まくびか」等の展着剤の使用で、防除効果向上や汚れの軽減が期待できます。

【次回予察は6月2日となります】

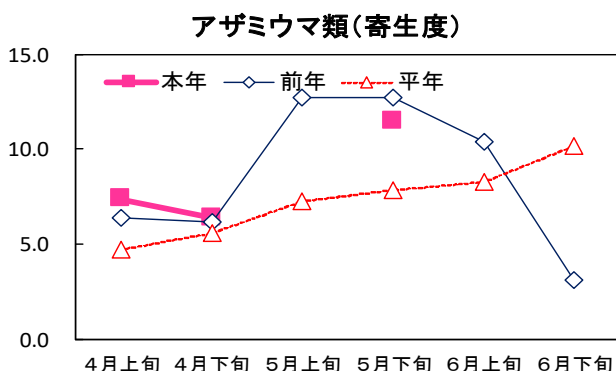
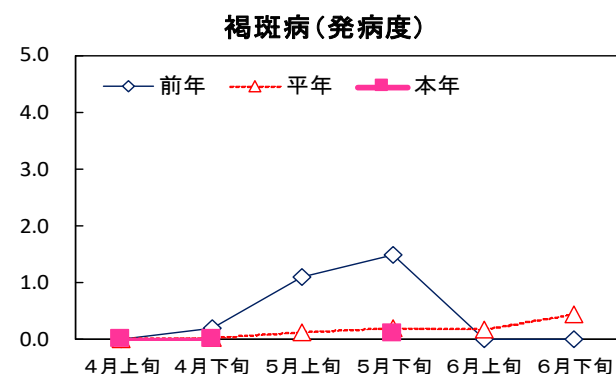
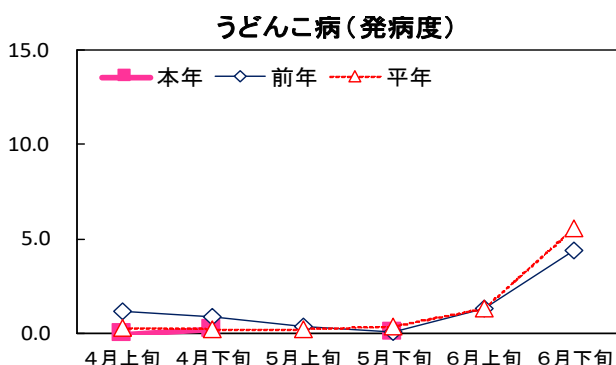
R2年 園芸施設共済 きゅうり病害虫発生予察調査結果(白根)のお知らせ No.4

調査日 令和2年5月19日

NOSAI新潟県、NOSAI新潟、JA新潟みらい
新潟市、病害虫防除所、新潟農業普及指導センター

病害虫名	発病度 寄生度	過年度比較		今後の 発生動向	生育の概況等
		前年値	平年比		
灰色かび病	0.0	0.0	並	→	※ 調査点数 8点 ※ 生育ステージ 2/中定植：孫づる収穫中 3/上定植：子づる収穫中 3/下定植：子づる収穫中
うどんこ病	0.1	0.1	並	↗	
褐斑病	0.1	1.5	並	↗	
アザミウマ類	11.5	12.7	やや多	↗	
アブラムシ類	0.0	0.1	並	→	
その他病害虫					※ 平年比は過去10年の平均との比較

～ アザミウマ類に引き続き警戒を！ 防除を徹底しましょう ～



【病害】

- ・うどんこ病・褐斑病の発生はそれぞれ1ほ場での確認で、今のところ少発です。
- ・本年の病害発生は少なくなっていますが例年病害が増えるのは6月以降なので注意してください。

【害虫】

- ・アザミウマ類(スリップス)の発生が多く、ほとんどのハウスで確認されました。発生程度は前年並みで、防除が徹底されているため、大きな被害とはなっていません。
- ・完全に死滅していないので、引き続きの防除が必要です。
- ・その他の害虫の発生はありませんでした。

【今後の管理ポイント】

- ・生育が進み、ハウス内が過繁茂となりました。また、例年に比べ葉の老化が早くなっているため、葉かきを早めに進めてください。
- ・暖冬の影響で露地では害虫の発生が多くなっています。今後換気操作による侵入が想定されるので、発生状況の把握に努め、早めに対処してください。

【次回予察は6月2日です】